

【学校教育目標】		〈重点目標（中長期的目標）〉	
<p>幅広い教養と高い専門性を追求し、社会に開かれた学びをとおして、平和な未来に貢献できる心豊かな人間を育成する</p>		<p>【ひとづくり(豊かな情操を育む人間形成)】 1 生命の尊厳を自覚し、真理と正義を愛する知識・教養・創造性豊かな人間の育成に努力する。 【ものづくり(付加価値の創造)】 2 独創(Originality)・想像(Imagination)・工夫(Device)・努力(Effort)の精神を尊重し、工業・商業両分野における“ものづくりの拠点校”としての役割を果たす。 【学校づくり(充実した学びの場の構築)】 3 安心・安全な学校(いじめ・体罰のない)をめざすとともに、環境教育や総合技術高校としての専門教育の推進等による特色ある教育システムを構築する。</p>	
領域	項目	具体的な教育活動	成果と課題
ひとづくり	1 自他を大切にす心の育成	<ul style="list-style-type: none"> 様々な教育活動をとおして自己理解を深める取り組みを行い、自己肯定感や他人を思いやる気持ちを育てることにより、命を大切にす教育を推進する。 メディアリテラシー、人権平和教育等に関する教育活動を推進する。 「いじめ防止基本方針」を定め、「いじめ」を許さない学校づくりを推進し、いじめ被害の未然防止・早期発見・迅速な解決を目指す。 クラブ活動や生徒会活動に積極的かつ自主的に取り組む中で、周囲と円滑な人間関係を築き、他人を思いやる心を持った豊かな人間性を育む。 生徒自身が積極的に活動に取り組めるよう生徒会行事や日々の委員会活動を計画・実施し、その活動を通じて他人を尊重する態度や思いやりの気持ちを育てる。 	<ul style="list-style-type: none"> 映画「破戒」の鑑賞を全校で行った。飯田下伊那での実話がモデルとなっており、被差別部落の当時の状況を生徒たちも感じ取ることができた。当時の差別はなくなりつつあるが、新しい差別への認識もまた、深めることができた。【キャリア学習 人権平和】 クラス内や部活動内において人間関係がうまく作れない生徒が増えてきている。いじめの発生はいつでもあり得ることで、未然防止・早期発見に努めていく。ネットを介したコミュニケーションが一般化しており、それにかかわる問題行動が多くなってきている。SNS等に起因するいじめ事案は表面に表れにくいので、常に生徒の様子に注目し変化を捉える必要がある。【生徒指導】 新型コロナウイルス感染症による制約がなくなり、生徒会活動も従来の形に戻りつつあるが、コロナ禍を経て諸状況が変化し、これまでとは違ったやり方などを模索することが多かったが、文化祭をはじめ様々な自主的な活動により人間形成を促すことができた。しかし、生徒の自主的な活動を支援する立場と、安全確保のためにプレーキをかける立場とを同時に行う難しさに苦労した。【生徒会】
	2 基本的生活習慣の確立	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活において、職員全体による働きかけから挨拶・服装・頭髪などに対する生徒自身の意識の向上と、5S（整理・整頓・清掃・清潔・躰）の充実を図る。 生徒会役員のあいさつ運動(4月、12月)、生活委員会の交通安全運動（4月）や身だしなみを整えさせる活動（5月、11月、1月）で全校生徒に働きかけ、基本的生活習慣を向上させる。 	<ul style="list-style-type: none"> 一般的に生徒は落ち着いた雰囲気の中で学習に取り組んでいる。授業開始時の見回りや登下校時の立ち番指導等を必要に応じ計画的に実施してきたが、身だしなみや挨拶等に改善の余地がある。スマホの取り扱い、服装について「生徒によるルールづくり」の呼びかけを継続していく。【生徒指導】 校則についてのアンケート実施など、これまで生徒会の懸案であった校則に関する議論のきっかけとなる活動を始めることができた。今後生徒自らのルールづくりに発展させていきたい。【生徒会】 年々、校舎内外の清掃に対して取り組み姿勢が改善されてきている。【美化推進】
	3 得意分野の伸長(卓越性の伸張)	<ul style="list-style-type: none"> 個々の意欲や特性ならびに能力を活かした活動ができるような環境や指導体制を整えるとともに、活動を校内外に広く発信することにより活動意欲を喚起する。 課題研究をはじめ様々な授業で積極的に外部との連携を図り、21世紀型スキルの1つであるコミュニケーション力を育成する。 授業、クラブ活動、行事等をリンクさせ、自ら課題を見つけ、自ら学び、自ら考え、主体的に判断し行動して、問題を解決する能力を育む。 キャリアデザインにつながる資格・検定・コンテスト等の紹介や日程等の詳細な情報提供を行う。 終業式等の全校集会時に難易度の高い資格取得や検定合格を表彰し、資格取得に向けての意識づけを強化する。 	<ul style="list-style-type: none"> 様々な分野を学び、資格取得をすることができる環境を活かし、全学科で取得可能な検定・資格を明示し、生徒の意欲に結びつけることができた。【キャリア学習】 ラグビー部は2年連続で全国大会に出場することができ、地元の方、多くの企業からサポートをいただき、その中でさらに地域に注目される学校になったと実感できた。さらに県内外の私立に負けないように工夫をして生徒募集や学校の特徴づくりに貢献していきたい。【ラグビー部】 原動機部は7月に行われた2024 Ene-1 SUZUKA Challengeにおいて、電気自動車競技で高校生部門12連覇を達成したほか、2位、3位に入賞した。また茂木・豊橋・大阪の各大会で優勝・入賞することができた。【原動機部】 電気部では今年度も2名の生徒がマイコンカーラリー全国大会出場を果たしたが上位に進出するまでには至らなかった。生徒自ら高い目標に挑戦する意欲や探究心を養うことが今後の重要課題であると捉えている。【電気部】 商業研究部は簿記班・ワープロ班・情報処理班・英語班の4分野に分かれ、専門性の伸長を図っている。6月および11月の長野県商業総合競技会に向け、目標を設定した上で、主体的にクラブ活動に参加し、ワープロ班は全国大会出の成果を上げることができた。【商業研究部】
ものづくり	1 基礎学力の定着(高校教育の共通性確保)	<ul style="list-style-type: none"> 学習習慣を確立させ、学ぶ意欲の向上を図る。 3観点評価の適用に際しては、授業担当者間で連携をとりながら授業および定期考査の準備を行う。 家庭学習の習慣が身につくよう指導を行い、結果として資格取得に結びつけていく。 ICT機器を活用した学習支援態勢の構築を図る。 月に一度HRで活用できる道德教育ワークシートを配布し、様々な社会的課題や地域の問題についての知見を深め、関心をもって問題解決に向かおうとする態度を養う。 1年、2年、3年ともに学年に合わせた地域への課題意識を持たせ、課題解決能力を育成していく。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力の確実な習得に向けたPDCAの取り組みにより、学力把握のための全国規模テストを計画的に実施した。結果の分析と教科指導へのフィードバックについて今後も継続的に検討していく必要がある。長期休業では各教科で課題を課し、資格取得につながる専門学科の実力テストを計画的に実施した。【キャリア学習】 資格取得という形で学んだ成果を形にすることで生徒の学ぶ意欲をより高めることができるよう、各種表彰の機会を設けた。2学年でインターンシップを実施し、就労観を育み将来に向けた学習活動の促進ができた。【キャリア学習】 実習を通して、PDCAを用いて課題に取り組みさせ、自己評価や振り返り学習させ、学習習慣を定着・学ぶ意欲の向上を図った。【各専門学科】
	2 専門力の伸張	<ul style="list-style-type: none"> 各学科の教育指導方針に沿い、職業人としての心の育成、資格・検定取得のための指導、地域人教育での社会人基礎力の向上に取り組む。 実験実習や課題研究をとおして知識・技能、思考力・判断力・表現力、学びに向かう力・人間性を向上させ、専門分野の実践的な力を身につけ、探究心を育む。 「高度な専門性」を伸長させるために、コンソーシアムや地域の企業等と連携して幅広い授業展開を行っていく。 先端技術の見学で見識を深めたり、課題研究でSDGsの17の目標に関するテーマを取り上げて学習を進めるなど、視野を広げることでキャリア教育の充実を図る。【機械工学科】 県内の研究機関の見学や大学の出前授業をとおして電子機械分野の先進的な研究開発に触れ、専門性を高めるとともに創造性や将来への希望を喚起する。【電気電子工学科】 企業で活躍する本校卒業生を講師に招き、進路講話や技術披露等を通して高い目的意識を持たせながら専門的な高度資格取得とも連動を図る。【電気電子工学科】 複数の地元測量会社から卒業生を講師に迎えて最新測量機器の講習会を開催し、専門技術に対しての見識を深め学習意欲を喚起する。また、資格試験対策の実施や地域の企業団体の様々な協力により、資格取得に向けた意識の向上とキャリア形成を図る。【社会基盤工学科】 建築士会をはじめとする地域の建築業界から講師を招き、様々な体験をすることにより建築技術の向上を図る。【建築学科】 地域人教育の取り組みをとおして地域の方との関わりを持ち、個々のコミュニケーション能力の向上を図る。【商業科】 	<ul style="list-style-type: none"> 校外学習では最新の技術や研究の現場に触れる機会を用意した。理論だけでなく、実物を目にすることで、学びを深めることができた。生徒にとって難解に感じるほど高度な内容の場合があるので、事前学習を十分行う必要がある。【機械工学科】 信州大学繊維学部機械ロボット学科の研究室見学、歩行補助用ロボットスーツを研究・販売する県内企業の見学、公立諏訪東京理科大学教授による特別授業を通し、電子機械の楽しさや可能性、有用性を具体的にイメージし理解する機会となった。【電子機械工学科】 企業で活躍する本校卒業生を講師に招き、進路講話や企業主催の技術披露見学会等を通して高い目的意識や、専門的な高度資格取得への意識の向上に役立てることができた。【電気電子工学科】 最新測量機器を活用した講習会を実施し、専門技術の向上につながった。また、資格試験対策として長野県測量設計業協会および建設業協会の試験対策講習会に参加し、資格取得に向けた意識向上を働きかけた。【社会基盤工学科】 建設業協会、建築士会、建築会、地域の企業から講師を招いて講習会や講演会を開催できた。外部の方々との交流で建築についての様々な学びとなった。【建築学科】 地域人教育の取り組みをとおし、地域の方、大学の先生、飯田市の職員といった幅広い方々との関わりを持つことができ、コミュニケーション能力を向上させることができた。【商業科】
	3 総合技術教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 「地域協創スペシャリスト」を育成するための探究学習プログラム「地域協創教育『虹』」の充実化を図る。 NIE（新聞を活用した教育）を「環境とビジネス」「地域活性プログラム」の授業に組み込み、探究する力や協創する力の向上を図る。 他の総合技術高校との連携を深め、情報を共有することにより、学校設定教科「総合技術」の深化・発展を図る。 地域に根ざした課題研究に取り組む。 全校課題研究発表会の内容の充実を図り、本校の特色ある教育活動を企業や地域に向けて発信する良い機会と捉えて、効果的なPR方法を工夫していく。 	<ul style="list-style-type: none"> NIEでは京都全国大会に2名の職員が参加し研究授業の取材を行い、校内では新聞を使用した公開授業を実施した。これらの活動の取り組みが信濃毎日新聞に掲載された。【地域協創推進室】 3年選択「地域活性プロジェクト」授業では、生徒がいくつかのテーマの中から1つを選択し、1年間を通して取り組み、発表した。【地域協創推進室】 今年度の課題研究ではSDGsが大きなテーマとなり、具体的な研究活動内容の決定にかなりの時間を要したが、身近な問題を考えることにつながり、探求を深めることができた。また、製作した玩具を用い、公民館などの外部の協力を得て、地域の子供たちと触れ合う取り組みを行った班もあった。【機械工学科】 課題研究では長野県建設業協会や長野県測量設計業協会と連携しながら、全校の発表会に向けて生徒教員が課題を調査発見し、考察しながら取り組んだ。今年度で8年目となる「松川おいでなんしょプロジェクト」ではこれまでの成果を土台に着実に前進することができた。また、学科独自の発表会を設け課題の成果を発表し広くPR活動を行った。【社会基盤工学科】
	4 進路指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> キャリア学習や様々な進路行事をとおして自分の在り方や職業人としての生き方を構想する力を育む。 各種団体と連携して、会社見学や卒業生との懇談の機会を拡充する。 進路希望調査や面接により生徒・保護者の進路希望を把握し、専門高校の強みを活かした進路実現を支援する。 進学希望者、就職希望者に対する補習・面接指導を全職員の協力によって実施する。 新しい入試制度や、他校の指導事例に関する情報収集を行い、より効果的な指導を行えるようにする。 新指導要領に呼応した評価・評定による進路指導関係の問題点や変更点を明らかにし、具体策を講じるべく対応していく。またこの取り組み状況を次年度以降の進路指導に活かしているよう伝達していく。 「キャリアパスポート」のシートや学習支援サービスなどを活用し、自分の在り方や職業人としての生き方を構想し続ける力を育む。 	<ul style="list-style-type: none"> 3学年全員に4月から進路係が面接を行い、意識喚起や希望の調整を行った。3年生にはハローワークの高卒WEBをタブレットで閲覧できるようにし、2年生にも冬から求人票PDFで企業研究できるようにした。就職希望者・進学希望者への面接指導を全職員の協力で実施した。進学では積極的な受験が見られ、商業科から久しぶりに国立大学合格者が出た。3月には1,2年生の希望者による地元企業見学・進学イベント参加を予定している。新学習指導要領による評価の変更があり、推薦入試の出願基準や校内選考への影響が心配されたが、大きな問題もなく出願の指導ができた。【進路指導】 3学年の進路状況に於いては、概ね希望に沿った実現がなされている。本年度当初は新指導要領の3観点評価とその評定を定める手法から、評定の中間層が困り状態になってしまうという懸念があったため、生徒個々の評定平均値が同数値となった場合の対処法について準備・対応を行った。結果として評定平均値が同数値となった事案は発生しなかったが、現行の評価・評定の手法を用いていくのであれば事前に対処法を考えておき、生徒・保護者向けに十分な周知を行っておくことが肝要である。【3学年】 飯田職業安定協会による「地域企業説明会」(9～11月)は生徒にとって地元企業を知る良い機会になった。他校は希望者のみ参加のところ、2年キャリア学習として本校開催とエスパード開催の2回を実施した。また、本校開催は地元企業のアピール以外の方法を提案している。また、各学科3年生による「先輩の話を聞く会」(12～1月)では先輩の成功体験を聞くことで、自身の進路へのこれまでの取り組みについて顧みる機会になった。【2学年】
学校づくり	1 安心・安全な学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 危機管理意識を高め、事案発生の場合に迅速で適切な対応を目指す。 様々な教育活動をとおして「集団の中の自分、自分を取り巻く集団」という意識を持たせ、人との関わり合いを大切にす態度を育む。 職員間の情報共有を充実させ、不登校や障がいを抱えた生徒の日常生活を見守り、状況に応じてチームでの支援体制を整える。またSC(スクールカウンセラー)やSSW(スクールソーシャルワーカー)をはじめとした専門機関と連携を図り、校内外での支援体制を強化する。 感染症の流行拡大時の諸対応を関係分掌が連携して的確に行えるよう準備をしていく。 クラブ活動や生徒会活動に生徒自身が主体的に取り組む、教員や仲間とのかかわりの中でコミュニケーション能力を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の動向に注意し、状況に応じた指導・支援を臨機応変に行った。さらに個々の生徒の実態把握に努め、家庭・地域・関係機関等との連携を強化して指導に当たっていく。【生徒指導】 学年、担任、委員会内の情報共有の強化ができ、SC、SSWとの連携も図り生徒支援の体制を作ることができた。【教育相談】 大規模な自然災害時に確実な安否確認を行うために、本校で運用している一斉メール配信による確認演習を1学期に実施した。メール登録率の一層の向上を図りたい。【教務係】
	2 環境美化の推進	<ul style="list-style-type: none"> 美化推進委員会が中心となり校内の清掃美化を全校生徒に働きかけ、環境美化に努める。また、ゴミの分別の徹底を通じ規範意識も身に着けに根ざす。 	<ul style="list-style-type: none"> 日常の清掃活動におけるごみの分別収集や資源ゴミの回収、一斉美化作業や大掃除の準備・片付け等を行い、校内の環境美化に努めた。ごみの分別が不十分であるため分別方法の徹底を図り、リサイクルを中心とした環境問題に対する意識向上を目指したい。【美化推進】
	3 組織的な学校運営	<ul style="list-style-type: none"> 総合技術高校としての強みを生かし、新たな取り組みを探りながら学校を進化させていく。 校務支援システム(C4th)の円滑な運用を情報処理係と教務係と連携して進めていく。【教務係】 授業公開や体験入学、オープンキャンパス等の広報活動の内容の充実と効率的な運営方法を検討していく。 生徒1人一台端末(BYOD)の活用について、関係部署で検討を進める。 新たな入試制度に合わせ、情報処理係と連携を取りながら業務や運営の改善をし、適切に入学選抜が行えるよう準備をしていく。 交通安全や個人情報の適切な扱いへの意識向上、わいせつ行為や体罰など非違行為の未然防止のための職員研修を実施する。 	<ul style="list-style-type: none"> 校務支援システム(C4th)の運用にあたり、情報処理係の協力により円滑な校務作業を行うことができた。職員による中学校訪問及び進路講話での生徒発表を各専門学科の協力により例年通り実施することができた。また、各担当係が計画した職員研修(保健衛生、情報処理、交通安全、エコマネジメント、コンプライアンス等)が年間を通して実施された。【教務係】 授業公開(4,6月の2回実施)、中学校生徒の体験入学(7月実施)、学科別オープンキャンパス(10～11月実施)。各行事において参加者数増、各中学校へ広報活動を行うことが出来たと考えられる。申し込み方法にGoogle Formsを活用することで、業務を簡略化することが出来た。【教務広報・体験入学委員会】 生徒1人一台端末について、全日制では今年度でBYOD端末による学習活動を展開できたが、授業内での活用については今後関係部署間で連携して検討することにより一層効果が向上するものと思われる。【情報処理係】 新しい入学選抜に向けて、情報処理システムの更新、業務フローの改善を行い準備を整えている。【入試委員会】